

令和 7 年 6 月 5 日

取手市議会議長

岩澤 信 殿

建設経済常任委員会

委員長 海東 一弘

副委員長 染谷 和博

委員 加増 充子

赤羽 直一

所管事務調査（委員派遣）報告書

1 委員派遣年月日

令和 7 年 5 月 2 1 日 （水曜日） 午後 1 時～

2 委員派遣場所及び調査事項

群馬県太田市（駅前のにぎわい創出について）

視察会場：太田市美術館・図書館

3 派遣委員

建設経済常任委員会委員 4 名

- ・委員長 海東 一弘
- ・副委員長 染谷 和博
- ・委員 加増 充子
- ・委員 赤羽 直一

4 委員派遣報告



太田の文化・芸術の過去現在を見つめ、
世界最先端の感性やクリエイティビティに触れる美術館、
世界 60 カ国以上・20,000 冊を超える絵本児童書、
14,000 冊のアートブックが揃う図書館。
建築家・平田晃久氏による設計、市民ワークショップから
生まれた太田駅前のランドマーク的複合施設。

～まちに創造性をもたらす、知と感性のプラットフォーム～

『太田市美術館・図書館』

『太田市美術館・図書館』 5つの注目ポイント

太田市美術館・図書館（群馬県・太田市）は、まちに創造性をもたらす、知と感性のプラットフォームとして、「創造的太田人（そうぞうてきおおたびと）」を基本理念に、太田で育まれてきたものづくりの英知を継承しながら、市民によるこれからのまちづくりの拠点となることを目指し、2017年4月にグランドオープンした。

太田市美術館・図書館は、斬新な発想により人々の感性を刺激する多彩な美術作品と、創造的発想の源泉となる広範な知識を提供する図書資料を同時に閲覧できる場である。太田市民に内在する創造性を開花させ、創造性あふれる市民とともに、まちに広がり、中心市街地に賑わいをもたらすプロジェクトを多彩に展開している。

①建築家・平田晃久×市民ワークショップから生まれた複合施設

本施設は、2014年3月に公募で選ばれた建築家・平田晃久氏が設計を担当。デザインを決める過程では5か月間にも及ぶ市民ワークショップを行い、太田駅前の新たなランドマークとなる複合施設が誕生した。

②太田の文化・芸術の過去現在を見つめ、世界最先端の感性に触れる美術館

太田の文化・芸術の過去現在を見つめ、未来を創り出す美術事業を市民とともに展開。

現代美術を中心に、ユニークな展示室の構成を活かした企画展を開催。太田市で育まれてきた文化・芸術の収集、調査研究を行うほか、世界最先端の感性やクリエイティビティに出会う展覧会を開催している。

ゆるやかなスロープと螺旋階段で結ばれた3つの展示室を効果的に活用し、知性と創造性を育む企画展や教育普及事業を展開するほか、まちに広がるアートプロジェクトを積極的に展開している。

③世界60ヵ国以上・20,000冊を超える児童書、14,000冊のアートブックが揃う図書館

世界60ヵ国以上・20,000冊を超える絵本児童書、14,000冊のアートブックが揃っている。豊かな創造性を育む「知の拠点」となることを目指す。

〈絵本児童書〉

「国際アンデルセン賞」受賞作をはじめ、60ヵ国以上から20,000冊を超える貴重な洋書などが海を越えてやってきた。見たことのない言語や、独自の風土が反映された個性豊かな本の数々は、世界の多様性に触れる入り口であり、図書館最大の特色である。

〈アートブック〉

美術的に重要な国内外の作家や、世界の先端を行く表現者の作品集を絵画や写真などジャンルごとに集めた。世界の瑞々しい感性と出会える 14,000 冊は絵本児童書コーナーに次ぐ特色になっている。

〈ブラウジングコーナー（雑誌コーナー）〉

美術や建築のほか創造的ライフスタイルを提案する和洋雑誌約 260 誌が、面陳されている。

④市内の施設が参加する「まちじゅう図書館」

太田市内の商店や事務所、個人宅にある本で小さな図書館をつくった。各館長のお気に入りの本、思い入れのある本が置いてあり、まちを訪れた人やまちに暮らす人が自由に手に取り、館長との会話を楽しむ「ふれあい」の図書館である。太田で本との出会いとまち歩きをお楽しみに！

⑤「地産地消」をモットーにするカフェ&ショップ

地元のコーヒーショップが太田の魅力を美味しく楽しく伝える。太田市の東毛酪農業組合が作る「東毛酪農低温殺菌牛乳 63℃」を使用した、東毛酪農ミルクソフトなど、地産地消をモットーに、食材は自家製と太田産にこだわった。太田駅前のみやげもの店として、アート・デザインを通して「ものづくりのまち太田」で「ここにしかない一品」との出会いをプロデュースしている。

施設の特長

〈図書館〉

本のサイズに合わせて様々な形態の書架を計画しました。
1 階のブラウジングコーナーではゆったりとしたソファでくつろぐことができます。
1 階から 2 階にかけては穏やかな閲覧エリアとし、書架に座ったり、雲のような書架に囲まれて読書できるスペースがあります。
3 階のレファレンスルームでは、貴重な資料を展示できるガラストップの大テーブルを囲み静かに読書ができます。



〈美術館〉

スベックの異なる 169 m²、92 m²、49 m²の 3 つの展示室で構成され、多種多様な作品の展示やワークショップなどのアーティストによる活動に対応が可能です。また、展示室 1 と 2 の間のスロープ、螺旋階段を活用し、複数の展示室を一体的に利用することもできます。

〈視聴覚ホール・イベントスペース〉

視聴覚ホールは 120 名まで収容可能で、映画上映や寄席、パフォーミングアーツなどの各種イベントに対応します。芝生広場に面するイベントスペースは、屋外で行うイベントや企画展示の一部として利用するなど様々な使用目的に対応できます。

〈カフェ&ショップ〉

太田駅に最も近い場所に位置し、気軽に立ち寄れ、駅利用者にも内部の賑わいがダイレクトに伝わります。

■基本コンセプト

太田駅前の人の流れを活性化し、街と自然が入り混じる、生きたサイクルを生み出す。駅からの人の流れを建物の中まで引きこむために、様々な方向に出入口をつくり、通り抜けできる街の一角のような施設である。

企画展示室等に緩やかなスロープが巻きついた構成とすることで、建物上部まで連続した道のような空間とし、緩やかな起伏のある街の外部空間のような雰囲気をつくっている。スロープに沿って箱の内側と外側には様々な場が展開され、子どもからお年寄りまで誰もが自分の居心地のよい場所を見つけそれぞれの時間を過ごすことができる。

頑丈なコンクリートでできた箱の屋上に土を入れて緑化し、外部からはガラスを通して内部の人の動きやアートが見え、中に入りたくなる雰囲気をつくり、美術館や図書館からお互いが見えるようにし、人の流れを誘発する。美術館の企画展やイベントに関連して、図書館の一角にそれと連動した企画図書コーナーを設け、美術館と図書館との連携を意識し、お互いの活動がまじりあうような関係を目指している。

■構造計画

全体架構は耐力壁付ラーメン構造による5つのボックスとS造によるリムの組み合わせにより構成されている。

ボックス内の床スラブは北側2つのボックスではS造、残り3つのボックスはRC造でできている。リムはボックスから垂直に突き出る鉄骨梁、梁を先端で支える鉄骨柱、梁間にかかるデッキスラブにより構成されている。

■設備計画

箱の向きを調整しながら風の流れのシミュレーションを行い、テラスと屋内の最適な風環境を体現している。

太田市は季節ごとに特徴的な気候を有すことから、中間期の穏やかな風や日照時間の長い地域の特性を有効に利用し、環境負荷を低減させる計画としている。高効率な設備システムを適材適所に配置し、高品質で安定した屋内環境をつくっている。

タスクアンビエント照明を採用し様々な明るさの場をつくり出している。

■造作家具

OSBを使用し厚みの差を目立ちにくくすることで、求められる機能性の異なるデザインに統一感をもたらしている。

地元の企業と共同で作り方の観点から意匠検討を行いペンダントライトやソファなどの製作を行なっている。

■ファブリック

空の雲や自然を感じられる空気のようなカーテンを計画した。

事業の概要

■基本理念

創造的太田人 まちに創造性をもたらす、知と感性のプラットフォーム

太田市美術館・図書館は、まちに創造性をもたらす、知と感性のプラットフォームである。

近代以降、太田市は「ものづくり」を中心に発展してきた。ものづくりを通して培われてきた市民ひとりひとりの英知は、いまま太田市の活力の源泉となっている。

一方で太田市は、中心市街地の衰退、高齢化への対応など様々な都市課題を抱えてもいる。

今後太田市が「人と自然にやさしい、笑顔で暮らせるまち」であり続けるためには、「まちづくり」に対する市民の参画と協働をこれまで以上に推進していくことが重要になる。

こうした認識を踏まえ、太田市美術館・図書館は、「ものづくり」を通して育まれてきた太田市民の創造性を、これからの「まちづくり」に生かしていくための拠点となることを目指している。

太田市美術館・図書館は、斬新な発想により人々の感性を刺激する多彩な美術作品と、創造的発想の源泉となる広範な知識を提供する図書資料を、同時に閲覧できる場所を提供している。そのことにより太田市民に内在する創造性を開花させるとともに、創造性あふれる市民とともに、まちに広がり、中心市街地に賑わいをもたらすプロジェクトを多彩に展開していく。太田市美術館・図書館は、太田市の未来を担う「創造的太田人」を育成している。

■事業目的

太田市に蓄積されてきた創造の遺伝子の収集と調査研究

太田市ゆかりの美術品や工芸品、郷土の歴史に関する資料や近代産業関連資料などを収集し、その調査研究を推進することで、太田に蓄積されてきた創造の遺伝子の価値を顕在化させている。

世界の最先端の感性やクリエイティビティに触れる機会の提供

現代において世界最先端の評価を受ける表現や知識に触れる機会を提供し、太田市民による創造的取り組みの一助となることを目指している。また、美術館事業、図書館事業を同時に推進することで、感性と知性の双方を刺激している。

次代を担う人材、プロジェクトの育成

本施設を拠点として、まちに広がるプロジェクトを多彩に展開するとともに、次代を担う子どもたちの創造性の育成に取り組み、事業計画、運営に市民が主体的に参加し、市民とともに本施設を運営している。

施設概要

名 称 : 太田市美術館・図書館
所在地 : 群馬県太田市東本町 16 番地 30
開館時間 : 午前 10 時～午後 8 時
(日曜・祝日は午後 6 時まで)
休館日 : 月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)
敷地面積 : 4641.33 ㎡
構 造 : 鉄筋コンクリート造及び鉄骨造
階 数 : 地上 3 階、地下 1 階
建築面積 : 1496.87 ㎡
延床面積 : 3152.85 ㎡
高さ(最高) : 15.3m
設 計 : 平田晃久建築設計事務所
施 工 : 石川建設株式会社
主な施設 : ●美術館 : 展示室 1～3、収蔵庫
●図書館 : ブラウジングコーナー (1F)
絵本・児童書コーナー、アートブックコーナー (2F) レファレンスルーム (3F)
●視聴覚ホール ●イベントスペース ●カフェ&ショップ



「太田市美術館・図書館」公式サイト
<https://www.artmuseumlibraryota.jp/>

取手市議会建設経済常任委員会事前質問事項

	Q	A
1	開発や整備、事業展開などにおける民間事業者や専門機関、団体等との連携取組。	美術館・図書館の開館に向けて、美術館事業、図書館事業、共同事業などのプロジェクトの推進のために専門的知識を有する事業者（スパイラル/㈱ワコールアートセンター）に運営の指導・協力を求めるディレクション業務委託を2016、2017に2年で実施しておりました。美術館運営の在り方、進め方、図書館事業では選書方針や蔵書構成、事業展開など様々な指導、美術館・図書館の運営すべてにおいて、基本理念達成実現への協力をいただきました。 当館が直営方式である以上、館の正職員として美術、図書館の専門家を確保することは最大の課題でした。しかし現実には専門性の高いスタッフを十分に確保することは難しかったため、市の職員を中心としながら、職員の業務を民間事業者が指導し、支えるという総合ディレクション体制をとることになりました。
2	地権者や関係者への理解と合意形成。	2014年6月に東武鉄道株式会社から当館施設の用地を取得しています。地権者は同社のみであったため、特段の問題なく購入を完了しています。
3	地域住民とのワークショップ等でのエピソードや課題など。	市民WSの記録は過去にHPに掲載していた資料があります。以下をご参照ください。 ⇒H26WS報告書1-5.pdf ⇒H26WS報告書6-7.pdf ⇒H27WS報告書1-3.pdf なお、一部は以下のURLでも公開しています。 ⇒ https://www.artmuseumlibraryota.jp/facilities/#id04 シート「WS」もあわせてご覧ください。
4	近隣の施設等との連携。	令和5年10月の「どうぶつ と はなし ー 大曾根俊輔 乾漆彫刻展」では、市内学校に当館から出向いて美術展に関連した創作授業を行い、それを美術展の展示内容に反映させました。それまで大きな事業を市内施設と共同で行うことはしていませんでしたが、初めての試みになりました。 過去の美術展では、令和4年のトライノアシアト展で市役所文化財課の土器を借用し、同課の埴輪の写真を展示した事例があります。その埴輪を市内の高山彦九郎記念館で展示していました。 また、図書館の企画コーナーや図書イベントで、テーマに沿った関連団体とのコラボを行うことがあります（ex.2013.9.9救急の日になんだ救急救命士とのコラボイベント）。 太田駅の北口で民間主催の物販イベント（2024.8.31おおたサマーマーケット）が開催されるにあたり、当館の芝生エリアを主催者（太田市観光事業PR委員会；太田商工会議所内）に提供するといった連携を過去に行いました。今年度も同様のイベントが予定されており、駅前のにぎわい創出の観点から、継続して協力する方針です。
5	利用者駐車場を設置しない理由	当初の基本方針では「障がい者用及び親子用の駐車場を除き、一般利用者の駐車場は基本的に設置しない」としていましたが、設計に際して市民WSでは駐車場への関心が高く、最終的に40台分の駐車場を整備することになりました。

市民ワークショップ開催方法

参加者

- ・平田晃久設計事務所
- ・武蔵野美術大学（ボランティアスタッフ）
- ・前橋工科大学（ボランティアスタッフ）
- ・公募の市民 30人

第1回設計ワークショップ H26.5.24
・レクチャー（計画と空間の理解、利用についてアクティビティを抽出） ・エクササイズ（市民の計画理解とアクティビティ抽出、ゾーニングスタディの選択肢抽出）
第2回設計ワークショップ H26.6.21
・レクチャー（ゾーニング選択肢A.B.C案の理解と選択） ・エクササイズ（箱のサイズを実寸で体験）
第3回設計ワークショップ H26.7.21
・レクチャー（箱の個数の選択肢3－6箱案の理解と選択） ・エクササイズ（箱の配置を検討）
第4回設計ワークショップ H26.8.9
・レクチャー（全体配置計画） ・テーブルディスカッション、全体ディスカッション（配置計画の選択肢抽出）
第5回設計ワークショップ H26.9.21
・最終案の報告 ・次回からの運営ワークショップのイントロダクション
第6回ワークショップ H26.12.6
・ふだんは意識していない建物や遺構、街並みなど歴史的、文化的な地域資源を訪ねる。 ・まちを歩くことで、地域文化の未来を担う「まち・もの・ひと」を探る。
第7回ワークショップ H27.3.21
・実施設計の報告 ・運営方法の紹介
・今までの設計ワークショップのまとめ ・施設の使い方についての要望の抽出

効果

ゾーニングや箱数・箱の配置等の市民の案を設計に生かすことができた。
市民が計画・運営に主体的に参画・協働する貴重な機会となった。

課題・改善点

行政主導としなかったため、参加者に対して責任の所在を明確にすることが弱くなってしまった。

所感

市民の方々とワークショップなどを行い、専門家とも議論を交わすなどして、たくさんの重要事項を決めているとの所でありました。

『市民の方々とともにつくり上げる』とのようなことが具現化されている施設と感じたところです。

上記のとおり報告します。